

IgA 血管炎（アレルギー性紫斑病）

IgA 血管炎とは：

皮膚に紫斑（出血性の皮疹）、腹痛、関節痛、腎炎などの症状を呈する、免疫の異常による病気です。“IgA”と呼ばれる抗体がさまざまな臓器の小さな血管に沈着して血管に炎症が起き（血管炎）、症状が出現しますが、発症原因は解明されていません。

IgA 血管炎の症状：

1.皮膚症状（100%）

発症時は蕁麻疹様のことが多い。その後、紅斑または丘疹に変化し、紫斑、点状出血へと移行する。
両側対称性で下肢の伸側は必発。
膝、足、臀部にも好発。

2.関節症状（70%）

関節の疼痛、腫脹。

3.腹部症状（60-80%）

腹痛、嘔吐、血便、激しい疝痛発作。腹痛が他の症状に先行することも多い。

他にも腎症状、神経症状、外陰部症状を認めることもある。

IgA 血管炎の治療：

- ・ほとんどの場合、自然治癒する疾患であり、安静を保ち対症療法的な治療が主となる。
- ・関節症状に対し、安静や湿布でコントロールできない場合は非ステロイド系消炎鎮痛剤の投与を行う。
- ・腹部症状が強い場合、鎮痙剤の投与を行い、鎮まらなければステロイドを短期間投与することがあります。

当院での対応：

小児 IgA 血管炎診療ガイドライン 2020 が発行され、日本全国どこの病院でも大きな治療方針に変わらなくなってきました。当院では、このガイドラインの制作・執筆にも関わった腎臓内科専門医(小児)が診療・治療を行なっています。